

先生各位

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
 平素は格別のご愛顧を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。
 このたび下記の検査項目につきまして、検査内容を変更させて頂きたくご案内申し上げます。
 先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒宜しくご了承の程、お願い申し上げます。
 また、今後とも宜しくご厚誼の程、お願い申し上げます。

謹白

記

● 変更実施日 2013年7月1日（月）受付分より

● 変更内容

案内書 掲載頁	項目 コード	項目名称	変更箇所	新	現行	備考
6	5184	クロストリジウム ディフィシル抗原	項目名称	便CD抗原・トキシン	クロストリジウム ディフィシル抗原	現試薬販売中止による 測定試薬の変更。これ に伴い項目名称、報告 様式を変更させて頂き ます。
			報告様式	<抗原> (＋)または(－) <トキシン> (＋)または(－) ※抗原とトキシンの両方の 結果を報告	<抗原> (＋)または(－) ※抗原の結果のみ 報告	

C. difficile は偏性嫌気性グラム陽性桿菌で、本菌保有者に抗菌薬治療を行うと菌交代現象により正常腸内細菌叢が攪乱され、本菌の異常増殖と毒素（トキシンA／トキシンB）産生がおこり、抗菌薬関連下痢症（AAD）や偽膜性大腸炎（PMC）などの *C. difficile* 関連下痢症／腸炎（CDAD）を引き起こします。

症状は幅広く軽度の下痢から重篤な病態まであり、再発することも多く治療を困難にしています。また、本菌は院内感染の原因菌としても重要で医療従事者も感染源となりうるため十分な感染対策が必要となります。

<測定結果の判定>

	抗原	トキシンA/B	解 説
①	(＋)	(＋)	<i>C. difficile</i> のトキシン産生株の存在を示す。
②	(－)	(－)	<i>C. difficile</i> 感染症は否定的
③	(＋)	(－)	トキシン非産生株、もしくは低感度による偽陰性、両方の可能性を考慮する。 <i>C. difficile</i> の存在は確実なので、培養を実施し、培養コロニーを用いてトキシン産生能を確認することが勧められている。